

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月14日
【四半期会計期間】	第30期第2四半期（自平成25年7月1日至平成25年9月30日）
【会社名】	株式会社魚力
【英訳名】	UORIKI CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 中田 雅明
【本店の所在の場所】	東京都八王子市石川町2969番地5
【電話番号】	042(648)8868(代表)
【事務連絡者氏名】	管理本部長兼財務経理部長 伊藤 忠彦
【最寄りの連絡場所】	東京都八王子市石川町2969番地5
【電話番号】	042(648)8868(代表)
【事務連絡者氏名】	管理本部長兼財務経理部長 伊藤 忠彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第29期 第2四半期 連結累計期間	第30期 第2四半期 連結累計期間	第29期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	11,484,046	12,433,042	24,847,581
経常利益(千円)	202,676	641,360	1,062,636
四半期(当期)純利益(千円)	133,663	339,229	595,184
四半期包括利益又は包括利益(千円)	9,966	408,501	1,222,059
純資産額(千円)	12,244,785	12,973,753	13,416,275
総資産額(千円)	14,598,856	15,195,645	16,170,406
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	9.14	23.56	40.71
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	83.8	85.2	82.9
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	126,845	545,811	1,281,659
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	309,845	34,049	583,937
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	285,187	854,195	326,796
現金及び現金同等物の四半期(期末)残高 (千円)	1,800,495	2,868,013	3,206,990

回次	第29期 第2四半期 連結会計期間	第30期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	0.98	11.53

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年9月30日）におけるわが国経済は、政府主導の金融政策や公共投資を中心とした経済政策により、企業収益の回復や設備投資に持ち直しの動きがみられるとともに、雇用情勢が改善し景気はゆるやかに回復の兆しを見せております。一方、顧客の消費マインドは上昇傾向にあるものの、生鮮食品をはじめ食品全般の低価格志向や日常的支出への節約志向は未だ根強いものがあります。

また、水産業界におきましては、魚資源の枯渇化や海洋環境の変化に伴う漁獲高の減少、円安による漁船の燃料である重油価格の高騰や輸入魚を中心とした魚価高の影響など、当社を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、平成25年3月期から平成27年3月期までの“中期経営計画～「新生魚力」クリエイションプラン”を策定し、その2年目の経営目標として「改革の断行による新生魚力クリエイションプランの実現」を掲げ、「持続的成長企業への転換」と「社員の幸せの実現」に向けて、各事業分野における改革に継続して取り組んでまいりました。

この間、小売事業で1店舗を出店いたしました。小売事業で1店舗、飲食事業で1店舗を退店し、更に小売事業で1店舗が現在休業中でありました。この結果、当第2四半期連結会計期間末の営業店舗数は56店舗（休業中1店舗を含む）となりました。

これらの結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は124億33百万円（前年同期比8.3%増）、営業利益は4億99百万円（前年同期比140.6%増）、経常利益は6億41百万円（前年同期比216.4%増）となりましたが、特別損失に固定資産の減損損失2億43百万円を計上したため、四半期純利益は3億39百万円（前年同期比153.8%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、セグメント別の損益をより明確に表示するために、各事業セグメントに対する費用の配賦基準の見直しを行っております。この変更に伴い、前年同期のセグメント利益につきましても変更後の算定方法に組替えております。

#### 小売事業

小売事業におきましては、既存店舗の売上高は、「ゴールデンウィークセール」や「母の日セール」、「土用丑の日セール」、月末恒例の「魚力の日セール」などのイベントやハレの日については好調だったものの、7月～8月にかけての記録的な猛暑や局地的な大雨の影響に加え、海水温の上昇による旬商材の入荷遅れも影響が大きく、対前年同期比で2.1%の減少となりました。

新店は、平成25年9月にJR京葉線海浜幕張駅に隣接するペリエ海浜幕張内に、寿司テイクアウト専門店に立食い寿司を併設した新業態として「魚力寿司海浜幕張店」（千葉県千葉市）を開店し、事業構造の確立に取り組んでおります。

なお、JR総武線稲毛駅に隣接するペリエ稲毛内の「稲毛店」（千葉県千葉市）は、商業施設の大型改装による休業に伴い7月より一時休業しておりますが、11月下旬に改装オープン予定です。

また、催事契約満了により、7月に寿司テイクアウト専門店の「恵比寿店」（東京都渋谷区）を退店いたしました。

一方、店舗運営の改革については、生産性（従業員1人当たり売上高）の改善に取り組み、店舗の作業のムダ・ムラ・ムリを排除し作業効率を高めてまいりました。また、総労働時間の管理や残業管理を徹底することで人件費の適正化にも取り組んでまいりました。

更に、4月より八王子事業センターにおける配送や在庫管理等の物流業務をアウトソーシングすることで経費削減を図ってまいりました。

これらの施策の結果、売上高は99億20百万円（前年同期比6.4%増）、営業利益は4億73百万円（前年同期比71.6%増）となりました。

#### 飲食事業

飲食事業におきましては、外食業界の熾烈な出店競争や価格競争が恒常化する厳しい環境にある中、メニューの継続的な見直しや、小売事業と連動し“旬の魚”を中心とした販促企画の実施等により集客に努めたものの、売上高は対前年同期比で0.3%の減少となりました。

しかしながら、前期より取り組んでまいりました店舗運営体制の更なる見直しや、食材の見直しによる仕入原価の引き下げを更に進め、収益構造の改革に取り組んでまいりました。

なお、施設の建て替えに伴う契約満了により、平成25年9月に「魚力海鮮寿司昭島店」（東京都昭島市）を退店いたしました。

これらの施策の結果、売上高は4億47百万円（前年同期比0.3%減）、営業利益は9百万円（前年同期比65.4%増）となりました。

#### 卸売事業

卸売事業におきましては、平成24年6月1日に会社分割（簡易新設分割）により設立し当社より卸売事業を承継した株式会社大田魚力は、大田市場を活用した配送網を武器に新規卸売先の開拓を進め、グループ内取引を除く売上高は9億66百万円、営業利益は17百万円となりました。

米国子会社ウオリキ・フレッシュ・インクは、日本食ブームを背景に、食品スーパーへの寿司ネタや寿司関連商材を中心に売上高を対前年同期比34.2%増の10億66百万円にまで拡大し、営業利益は84百万円を計上することができました。

これらの施策の結果、グループ全体の卸売事業の売上高は20億32百万円（前年同期比18.6%増）、営業利益は1億3百万円（前年同期比83.2%増）となりました。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、28億68百万円となり、前連結会計年度末と比較して3億38百万円の減少となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、5億45百万円の収入（前年同期は1億26百万円の収入）となりました。主なプラス要因は、税金等調整前当期純利益4億74百万円、売上債権の減少額3億21百万円、減損損失2億43百万円等であり、主なマイナス要因は、法人税等の支払額3億80百万円、未払金の減少額1億60百万円等でありませ

ず。「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、34百万円の支出（前年同期は3億9百万円の収入）となりました。主なプラス要因は、投資有価証券の売却による収入6億93百万円等であり、主なマイナス要因は投資有価証券の取得による支出6億79百万円等であります。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、8億54百万円の支出（前年同期は2億85百万円の支出）となりました。これは自己株式の取得による支出5億63百万円、配当金の支払額2億91百万円等によるものであります。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

### (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループは、強みである鮮魚の仕入力、販売力と経営実績によりつくられた信用力を活かして、総合的な「海産流通業」をめざすことを基本的な経営戦略としております。

この実現のために、基幹事業である鮮魚及び寿司の小売事業の事業内容の強化と首都圏及び中京圏を中心とした店舗網の拡大・整備を図っております。

飲食事業は魚食に係わるノウハウを十分に活用した寿司飲食店と海鮮居酒屋の2業態の事業構造確立と収益力の拡大に取り組んでまいります。

また、卸売事業では、東京都中央卸売市場大田市場を拠点とした株式会社大田魚力は、鮮魚の仕入力の強さと、培った鮮魚のノウハウを活かし、リテールサポートを付加した食品スーパーを主とした取引先とする鮮魚卸売事業の拡大を図ってまいります。

更に、世界的な鮮魚の需要の高まりに対応して、グローバルな鮮魚流通を進めている米国における鮮魚卸売会社ウオリキ・フレッシュ・インクは、引き続き事業の拡大に取り組んでまいります。

また、天然の魚資源の枯渇化に備え養殖魚の安定的調達のため養殖業者との資本・業務提携を行う一方、加工業者2社と当社との共同出資により合併会社を新たに設立し、新たな時代のニーズに対応した商品開発や品揃えに対応してまいります。

これらの事業を円滑かつ効率的に推進するためにグループとしての新しい物流システムを構築してまいります。また、併せてグループ情報システムのレベルアップを図ってまいります。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

(資金需要)

当社グループの運転資金需要の主なものは、当社グループ販売商品の購入の他、販売費及び一般管理費等の営業費用によるものであります。

営業費用の主なものは、人件費、店舗賃借料及び店舗運営に関わる費用(テナント経費・水道光熱費・販売促進費等)であります。

設備資金需要のうち主なものは、小売事業、飲食事業の新規店舗・改装店舗に関わる店舗内装・空調・衛生厨房設備等の販売拠点の拡充・整備によるものと、全社的なIT活用推進を図るための、本社・店舗間のネットワーク構築やセキュリティ対策等のシステム投資であります。

(財務政策)

当社グループは現在、運転資金及び設備投資資金につきましては、内部資金でまかなう事を基本方針としております。

従いまして、無借金経営政策を継続しておりますが、借入枠につきましては、金融機関2行との間に合計6億円の当座貸越契約を締結し、不測の事態に備えております。

当社グループは、健全な財務状態を継続しつつ、営業活動により得られるキャッシュ・フローから、成長を維持するための将来必要な資金を調達することが可能と考えております。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループを取り巻く経営環境は、人口の減少、少子高齢化の進行、生活者の魚離れ等により、魚食が減少する状況にあります。また、魚資源の枯渇化の進行や、海外の魚食普及・原油高等に起因する魚価の高騰など、魚を取り巻く環境はより一層厳しくなるものと考えております。

しかしながら、このような時こそ「良い魚を鮮度良く、より安い価格で提供する」という当社の創業以来の精神を継続して持ち続け、お客様の支持を絶対的なものとするとともに、日本の伝統文化である魚食の普及に取り組み、経営基盤をより確固たるものにしたいと考えております。

現状の課題としては、第1に、小売事業の収益構造の改善が重要と考えております。小売事業は、当社グループの核事業として売上高及び収益において大きな割合を占めており、当社グループの業績に与える影響が大きいためです。

消費者の食品に対する低価格志向や日常的支出への節約志向が継続する中、小売業界におきましては、業態を超えた企業間の競争はますます激化するとともに、インターネット販売や移動販売・宅配業者等との競争なども加わり、今まで以上に商品の提供やサービスレベルの向上に努め収益力の強化を図ってまいります。

一方、社会情勢の変化によりコストアップとなる要素が増えており、これに対し経費の削減策を進めておりますが、店舗の運営体制の更なる見直しによる生産性の向上に取り組み、収益構造の改善に努めてまいります。

第2に、時代のニーズに対応した商品開発や品揃えが課題となっております。高齢化社会や単身者の増加に対応した「一尾・一切れ」からの販売や「少量パック商品」の充実、更に、顧客の利便性ニーズに対応した「調理済みの煮魚・焼魚・骨なし魚」の販売を充実してまいります。

このため、合弁会社松岡インターナショナル株式会社を活用し、調理済みの商品の調達体制を強化するとともに、大手養殖業者との業務提携の進捗により、西日本を中心とした水産物の調達体制を強化し、幅広い品揃えによるお客様のニーズに対応してまいります。

第3に、物流ネットワークシステムの再構築を進めてまいります。従来の八王子事業センターを中心とした物流体制から、大田市場の活用や物流業者への業務委託を開始いたしました。今後の小売事業の店舗展開や卸売事業の新たな取り組み等を見据えた「物流ネットワーク」の構築に取り組みしてまいります。

第4に、成長性の確保があげられます。当社は、小売事業・飲食事業においてテナント出店を基本に店舗展開をしておりますが、近年、当社がターゲットとするターミナル駅近隣の商業施設は新規開発が少なくなっており、既存施設、すなわち現在同業他社が営業している店舗への入替出店が主となっております。そのため、既存店舗の活性化や人材の育成により出店候補者としてディベロッパーより指名されるよう努力してまいりました。

また、今後の成長性を確保するためには新規出店は不可欠であり、首都圏を中心とした店舗開発情報の収集に力を入れ、積極的な物件開発に取り組むことが重要であります。

併せて、小面積で出店できる店舗形態の寿司テイクアウト専門店については、その事業構造の確立と多店舗展開を視野に入れた新規出店先の開拓を継続してまいります。

第5に、人材の育成であります。将来の当社を担う経営幹部や店舗管理職の育成は積極的な出店には不可欠でありますので、社員教育の充実を図ってまいります。

また、店舗の重要な戦力となるパート社員については早期戦力化が課題であり、店舗で活用できる教育カリキュラムの開発にも取り組んでまいります。

第6に、コンプライアンスの遵守、とりわけ「食の安全」につきましては継続してお客様の信用を得ていくことが重要な課題であり、このための制度の更なる整備、教育の徹底、現場の指導強化を進めてまいります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	58,480,000
計	58,480,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	14,620,000	14,620,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数100株
計	14,620,000	14,620,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高 (千円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	14,620,000	-	1,563,620	-	1,441,946

##### (6)【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社山桂	東京都昭島市中神町2-22-6	5,224	35.73
山田 勝弘	東京都昭島市	730	4.99
三上 和美	東京都昭島市	721	4.94
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1-3-3	400	2.74
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	400	2.74
魚力社員持株会	東京都八王子市石川町2969-5 株式会社魚 力内	265	1.81
伊藤 繁則	東京都昭島市	200	1.37
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1-13-1	120	0.82
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	100	0.68
山田 貴史	東京都昭島市	100	0.68
計		8,260	56.50

(注) 上記のほか、自己株式が432千株あります。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 432,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,186,500	141,865	-
単元未満株式	普通株式 900	-	-
発行済株式総数	14,620,000	-	-
総株主の議決権	-	141,865	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が500株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数5個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社魚力	東京都八王子市石川町2969番地5	432,600	-	432,600	2.96
計	-	432,600	-	432,600	2.96

2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新橋監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,613,229	3,374,762
受取手形及び売掛金	1,781,573	1,466,024
有価証券	20,000	40,000
商品及び製品	577,219	430,313
原材料及び貯蔵品	8,695	6,994
その他	203,625	205,080
貸倒引当金	11,587	7,678
流動資産合計	6,192,754	5,515,496
固定資産		
有形固定資産	2,350,048	2,098,029
無形固定資産	329,854	103,722
投資その他の資産		
投資有価証券	5,975,593	6,090,075
その他	1,322,154	1,388,321
投資その他の資産合計	7,297,747	7,478,396
固定資産合計	9,977,651	9,680,149
資産合計	16,170,406	15,195,645
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	841,037	903,722
未払法人税等	393,006	165,106
賞与引当金	210,974	154,615
その他	1,100,805	802,593
流動負債合計	2,545,823	2,026,037
固定負債		
退職給付引当金	112,816	124,988
その他	95,490	70,866
固定負債合計	208,306	195,854
負債合計	2,754,130	2,221,892
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,563,620	1,563,620
資本剰余金	1,441,946	1,441,946
利益剰余金	11,463,769	11,361,889
自己株式	40,793	600,153
株主資本合計	14,428,542	13,767,302
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,451	58,385
土地再評価差額金	1,039,645	890,199
為替換算調整勘定	9,214	12,965
その他の包括利益累計額合計	1,027,978	818,849
少数株主持分	15,712	25,300
純資産合計	13,416,275	12,973,753
負債純資産合計	16,170,406	15,195,645



## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

( 単位：千円 )

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	11,484,046	12,433,042
売上原価	7,131,623	7,757,036
売上総利益	4,352,422	4,676,006
販売費及び一般管理費	4,144,817	4,176,498
営業利益	207,604	499,507
営業外収益		
受取利息	18,822	54,502
受取配当金	25,173	22,835
不動産賃貸料	11,700	5,340
デリバティブ評価益	-	26,053
為替差益	-	24,568
その他	15,164	20,360
営業外収益合計	70,859	153,661
営業外費用		
持分法による投資損失	1,042	1,769
自己株式取得費用	-	3,651
不動産賃貸費用	6,483	6,387
デリバティブ評価損	11,278	-
為替差損	56,360	-
その他	623	-
営業外費用合計	75,788	11,808
経常利益	202,676	641,360
特別利益		
固定資産売却益	48	259
投資有価証券売却益	-	78,690
特別利益合計	48	78,950
特別損失		
固定資産売却損	858	1,024
固定資産除却損	3,108	2,025
減損損失	-	243,066
持分変動損失	1,336	-
特別損失合計	5,303	246,116
税金等調整前四半期純利益	197,421	474,194
法人税、住民税及び事業税	18,123	155,081
法人税等調整額	42,132	29,068
法人税等合計	60,255	126,012
少数株主損益調整前四半期純利益	137,165	348,181
少数株主利益	3,501	8,951
四半期純利益	133,663	339,229

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	137,165	348,181
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	124,951	55,933
為替換算調整勘定	2,247	4,386
その他の包括利益合計	127,198	60,319
四半期包括利益	9,966	408,501
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,608	398,913
少数株主に係る四半期包括利益	3,358	9,587

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	197,421	474,194
減価償却費	160,199	146,401
減損損失	-	243,066
賞与引当金の増減額(は減少)	25,541	56,359
退職給付引当金の増減額(は減少)	26,784	12,171
貸倒引当金の増減額(は減少)	929	4,208
受取利息及び受取配当金	43,995	77,338
為替差損益(は益)	35,509	15,766
デリバティブ評価損益(は益)	11,278	26,053
売上債権の増減額(は増加)	395,597	321,683
たな卸資産の増減額(は増加)	30,786	160,193
仕入債務の増減額(は減少)	263,783	58,528
未払金の増減額(は減少)	39,519	160,922
投資有価証券売却損益(は益)	-	78,690
その他	44,968	147,841
小計	581,717	849,058
利息及び配当金の受取額	45,235	76,863
役員退職慰労金の支払額	176,100	-
法人税等の支払額	324,007	380,110
営業活動によるキャッシュ・フロー	126,845	545,811
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	47,924	80,317
有形固定資産の売却による収入	660	164,530
定期預金の預入による支出	-	500,000
定期預金の払戻による収入	300,000	400,000
投資有価証券の取得による支出	21,737	679,417
投資有価証券の売却による収入	118,810	693,547
関係会社株式の取得による支出	27,000	-
貸付金の回収による収入	49,489	3,370
敷金及び保証金の差入による支出	48,875	67,887
その他	13,577	32,124
投資活動によるキャッシュ・フロー	309,845	34,049
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	-	563,011
配当金の支払額	291,611	291,184
その他	6,423	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	285,187	854,195
現金及び現金同等物に係る換算差額	9,716	3,455
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	141,786	338,977
現金及び現金同等物の期首残高	1,658,709	3,206,990
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,800,495	2,868,013

【注記事項】

(会計方針の変更)

(荷造運賃及び包装用品費に関する会計処理方法の変更)

従来、店舗への商品配送に係る荷造運賃及び店舗で使用するトレー等の包装用品費は販売費及び一般管理費に計上していましたが、第1四半期連結会計期間より売上原価として計上する方法に変更しております。

この変更は、当社グループの営業戦略・物流戦略の一環となる当社システム(受発注・オンライン請求)の全面的な入替を契機に、当社の発生費用の性格についてより精細な分析を行った結果、原油価格の高騰や商品の少量販売に伴うトレー使用量の増大等を理由として、これらに関連する諸経費の金額的重要性が増しているため、当社の売上原価と販売費及び一般管理費をより適正に表示するために行ったものです。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度及び前第2四半期連結累計期間については遡及適用後の連結財務諸表及び四半期連結財務諸表となっております。

これにより、遡及適用を行う前と比べて、前連結会計年度の連結貸借対照表において、流動資産の「商品及び製品」が5,725千円増加し、「原材料及び貯蔵品」が同額減少しております。

また、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、売上総利益が353,208千円減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
給与手当	1,638,363千円	1,615,741千円
賞与引当金繰入額	226,130千円	154,615千円
退職給付引当金繰入額	59,847千円	43,394千円
賃借料	894,416千円	939,610千円
貸倒引当金繰入額	929千円	139千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	1,802,150千円	3,374,762千円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,654千円	506,748千円
現金及び現金同等物	1,800,495千円	2,868,013千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月8日 取締役会	普通株式	292,396	20	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月7日 取締役会	普通株式	291,664	20	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	小売事業	飲食事業	卸売事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,320,455	448,928	1,714,662	11,484,046	-	11,484,046
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	22,646	22,646	22,646	-
計	9,320,455	448,928	1,737,309	11,506,692	22,646	11,484,046
セグメント利益	275,995	5,829	56,638	338,463	130,858	207,604

(注)1. セグメント利益の調整額 130,858千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。その全社費用は、主に総務・財務経理部門等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 平成25年4月1日開始の連結会計年度より、セグメント利益の算定方法を変更したことに伴って、前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)のセグメント利益を変更後の算定方法に組替えております。これにより、従来算定方法によった場合に比べて、小売事業において5,642千円セグメント利益が増加し、飲食事業において7,452千円セグメント利益が減少し、卸売事業において1,810千円セグメント利益が増加しております。算定方法の変更内容につきましては、「当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日) 3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご覧ください。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。



当第2四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計
	小売事業	飲食事業	卸売事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,920,554	447,781	2,032,854	12,401,190	31,851	12,433,042
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	21,803	21,803	9,300	31,103
計	9,920,554	447,781	2,054,657	12,422,993	41,151	12,464,145
セグメント利益	473,678	9,641	103,767	587,087	18,505	605,592

	調整額 (注) 2	四半期連結損益計算書計上額 (注) 3
売上高		
外部顧客への売上高	-	12,433,042
セグメント間の内部売上高又は振替高	31,103	-
計	31,103	12,433,042
セグメント利益	106,084	499,507

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、テナント事業であります。

2. セグメント利益の調整額 106,084千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。その全社費用は、主に総務・財務経理部門等の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

（単位：千円）

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	小売事業	飲食事業	卸売事業			
減損損失	9,567	1,750	-	-	231,748	243,066

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

（報告セグメントの利益又は損失の算定方法の変更）

第1四半期連結会計期間より、セグメント別の損益をより明確に表示するためにシステムの変更を実施いたしました。これにより、各事業セグメントに対する費用の配賦基準の見直しを行っております。

この変更に伴い、前年同期のセグメント利益につきましても変更後の算定方法に組替えております。組替え後の数値及び影響額につきましては、「前第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年9月30日） 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	9円14銭	23円56銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	133,663	339,229
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 (千円)	133,663	339,229
普通株式の期中平均株式数(株)	14,619,819	14,396,721

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月12日

株式会社魚力

取締役会 御中

新橋監査法人

代表社員 公認会計士 倉持政義 印  
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 佐々木裕美子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社魚力の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社魚力及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 強調事項

会計方針の変更等に記載されているとおり、会社は、従来、店舗への商品配送に係る荷造運賃及び店舗で使用するトレー等の包装用品費を販売費及び一般管理費に計上していたが、第1四半期連結会計期間より売上原価として計上する方法に変更している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBRLデータ自体は含まれておりません。